


第102回日本選手権水泳競技大会




令和8年6月4日(木)～6月7日(日)までの間、東京アクアティクスセンター(江東区)において第102回日本選手権水泳競技大会が開催された。今大会は8月にアメリカ合衆国で開催されるパンパシフィック選手権の代表選考を兼ねた重要な大会であり、本校からは三浦玲央(みうられお)1等陸曹以下8名が参加し、ロサンゼルスオリンピックで新種目となる50m背泳ぎで優勝及び準優勝の成果を上げた。



自己ベスト2連覇

大会最終日、50m背泳ぎに出場した三浦1曹は予選を25.02秒の自己ベストで泳ぎ、全体1位で決勝に進んだ。また、早坂亮(はやさかりょう)2等陸曹も25.25秒の自己ベストで全体2位で決勝に進んだ。6時間後に行われた決勝では4レーン三浦1曹、5レーン早坂2曹と並んでのレースとなった。好スタートを切ったのは早坂2曹だった。バサロからトップで水面に浮上。リードを許した三浦1曹は中盤から追い上げる白熱したレース展開となったが、終盤僅差で逆転しそのままフィニッシュ。予選で出した自己ベストをさらに更新する24.96秒で2連覇を達成した。三浦1曹はレース後「連覇することができて嬉しい。4月から体育学校の恵まれた環境で練習できていること、早坂2曹など、同じレベルで競い、切磋琢磨できる存在が近くにいることが非常に大きい。今後は夏の国際大会に向け少しでもタイムを縮めていきたい。」と力強く語った。



自己ベスト初の表彰台

準優勝の早坂2曹も決勝では予選で出した自己ベストを上回る25.12秒で自己ベストを更新した。早坂2曹はレース後「これまで課題としていた25mからの泳ぎも今大会はしっかり泳ぎきることができた。2位という結果は悔しさもあるが、三浦1曹と優勝争いできたことは素直に楽しかった。今後はロサンゼルスオリンピックに向け代表になれるよう日々の練習を積み重ね、三浦1曹に負けないよう頑張っていく。」と語った。

今大会を振り返り監督の岡崎晃一郎(おかざきこういちろう)3等海佐は「3日目までなかなか成果が出ない状況だったが、チーム一丸となった雰囲気作りが最終日の成果につながった。水泳班の歴史で日本選手権でのワンツーフィニッシュは2回目、水泳関係者からの反響もあり、スカウト活動に向けてもいいアピールとなった。今後はパンパシフィック選手権及びアジア競技大会への内定が決まっている三浦1曹のメダル獲得と10月の日本選手権で世界選手権の出場権獲得に向け邁進していく。」と語った。